対話による平和定着のために戦争演習を中断せよ！

朝鮮半島に対話と平和の雰囲気が醸し出されている。平昌（ピョンチャン）冬季オリンピックで作り出された和解局面によって「3.6 南北合意」が成立し、来たる 4 月に第 3 次南北首脳会談が開かれることになった。続いて 5 月には史上初の朝米首脳会談が予定されている。あまりにも急激に進行した状況なので戸惑いさえ覚えるほどだ。分断されて 73 年の間続いてきた戦争と対立の歴史において初めて、平和に対する期待感が高まっている。

しかし一方で米国は、朝鮮民主主義人民共和国（以下「共和国」）が非核化に対する具体的行動を見せるべきであるとして条件を提示するなど、不透明な姿勢を見せている。韓国と米国は共和国に対する制裁と圧迫を依然として継続しており、韓米軍事訓練を中断していない。共和国は、対話期間中は核実験及び弾道ミサイルの試験発射を中断すること、韓国に対する核と通常兵器使用の禁止を約束したが、これもまた韓米軍事演習と制裁・圧迫の強度によって流動的にならざるをえない。

韓国の労働者民衆はロウソク抗争を通じて朴槿恵政権を引きずり下ろした。その結果成立した文在寅（ムン・ジェイン）政府は、南北対話を通じて共和国と米国を対話の場に出させた。しかし、過去の歴史から私たちが確認できるのは、状況はいつでも変化するという点だ。1994 年ビル・クリントン米政権時に朝米間で締結されたジュネーブ合意はジョージ・ブッシュによって破棄された。その後も朝米間の関係改善が幾度か試みられたが、結果は朝鮮半島を中心にした対決・緊張と戦争の雰囲気の高まりだった。

4 月の南北首脳会談、5 月の朝米首脳会談は、朝鮮半島の緊張を緩和し、平和を定着させられる絶好の機会だ。この機会を活かすために努力しなければならない。まず、対話の雰囲気づくりのために韓米および日米の合同軍事演習を中断しなければならない。共和国もこれに相応する措置を取るべきだ。特に日本の安倍政権は、平和憲法 9 条の改悪を通じて帝国主義的侵略を狙ってはならず、また、朝鮮半島の緊張を作ろうとするべきではない。

韓国では来たる 3 月 24 日に、ロウソク抗争が繰り広げられた光化門（クァンファムン）広場で諸団体が集まり平和ロウソク大会を開催する予定だ。文在寅政府に任せるだけでなく、労働者民衆が立ち上がって平和を作り上げようと決議している。これに先立ち、3 月 18 日に東京の米大使館前で開かれる緊急抗議行動に連帯と支持を送る。朝鮮半島と東アジアの平和、さらには全世界の平和のために、韓国と日本の労働者民衆が団結して行動しよう。

闘争（トゥジェン）！

2018 年 3 月 18 日（日）

AWC 韓国委員会